資料・写真提供/岩見沢市

2026年の午年（うまどし）を迎えて 大きな馬体でまちを拓いた 岩見沢のばん馬たち

岩見沢のまちを支えた「ばん馬」の歴史を求めて、100年前にタイムスリップ！

▲馬は地域住民の暮らしを陰で支え、農家は馬を家族のように慈しんだ（昭和35年頃）

北海道開拓の主役 ばん馬のルーツとは

「ばん馬」は、北海道で生まれた品種と思われがちですが、そのルーツは海外にあります。明治末期より主にフランスから輸入された「ペルシュロン種」という大型馬の交配によって、北海道の農耕馬として進化。ばん馬は畑を耕したり、荷物を載せたソリを引いたり、大きな馬体を活かした仕事に従事しました。

▲ばんえい競馬の終盤（平成17年）

▲岩見沢競馬場では道営競馬も開催された（昭和47年）

▲競馬場の落成式（大正12年）

ばんえい競馬の黎明

かつて岩見沢は〝ばんえい競馬のまち〟として知られ、逞しい馬たちの姿は、地域の誇りそのものでした。

ばん馬を使った競技のはじまりは、明治時代に遡り、1890年（明治23年）には「岩見沢競馬の会」が誕生しました。当時は馬の価値や力を試す競争として、二頭による綱引きや馬車にたくさんの人を乗せて引く、力比べなどが行われ、開拓時代の数少ない娯楽の一つでした。

まちの発展とともに

機械化が進むまでは、農場や炭鉱などで働いていたばん馬ですが、大きな荷車を引くことから、戦時中は軍馬として徴用されることもありました。その後、終戦とともに地域産業へと活躍の場を移しますが、戦後の復興政策として「ばんえい競馬」が始まり、新たな歴史を刻みます。

1953年（昭和28年）に発足した「市営ばんえい競馬」は、旭川・帯広・北見・岩見沢の4市を開催地として、高度成長の波に乗りながら昭和50年代にピークを迎えます。歴史的名馬「キンタロー」が活躍した時代でもありました。

歴史的名馬「キンタロー」

▲岩見沢記念の表彰式で重賞馬の風格を見せるキンタロー（昭和61年）

キンタロー（昭和52年生まれ）は、日本のばんえい競走馬、種牡馬。農林水産大臣賞典を3度優勝するなど重賞を14勝し、獲得賞金総額1億1672万5000円を記録した、ばんえい競馬史上初の「1億円馬」です。主に岩見沢競馬で活躍し、金山明彦騎手との名コンビで多くのファンを魅了しました。

お祭りの中で 未来に繋ぐ馬文化

時代は昭和から平成へ。岩見沢競馬は惜しまれながら2006年（平成18年）に幕を閉じました。しかしながら、農耕馬の歴史を受け継ぎ、地域産業や経済に寄与してきた「ばんえい競馬」の歩みは、消えることはありません。その象徴ともいえるのが「IWAMIZAWAドカ雪まつり」の名物イベント〝人間ばんば競争〟です。巨大なソリを仲間と力を合わせて引いて、50メートルを走り切るこの競技は、かつてのばんえい競馬の熱気そのものです。雪煙を上げながらソリを引く参加者の真剣な表情や会場からの声援には、まるでばんば馬の文化への敬意が宿っているように見えます。

▲JR岩見沢駅のばん馬の木像

◀大迫力の「人間ばんば競争」に歓声が上がる

昨年から「ちびっこ▶人間ばんば」も登場！

（「IWAMIZAWAドカ雪まつり」にて）

第36回 IWAMIZAWA ドカ雪まつり

開　催

2026年 2月7日（土）・8日（日）

ふるさとの歴史を新しい世代に。「ちびっこ人間ばんば」が今年も登場！各種イベント盛りだくさん。あったかメニューも勢ぞろい♪

そらちしんきん 個人向けローン

お申込みからご契約まで WEBで完結 ご来店不要 お申込はこちらから

カーライフプラン　教育ローン　個人ローン　フリープラン　カードローン

詳しくは、空知信用金庫本支店窓口までお問い合わせまたはホームページをご覧ください。

※本誌では特に表記のない場合は、全て税込価格にて表記しています。
※店舗の営業時間やイベント等の開催については、変更となる可能性がございます。